

連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2014.10 vol. 102

## 皮膚腫瘍科・皮膚科 開設



皮膚腫瘍科  
皮膚科医長  
松下 茂人

錦秋の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
この度、平成26年10月1日に鹿児島医療センターに皮膚腫瘍科・皮膚科が新設されまして、医長を拝命しました松下茂人です。私はこれまで鹿児島大学皮膚科や熊本大学皮膚科形成外科診療班、佐賀大学形成外科などで、皮膚腫瘍の診療に数多く携わってきました。皮膚腫瘍科・皮膚科では、皮膚疾患の中でも悪性黒色腫（メラノーマ）や基底細胞がん、有棘細胞がん、日光角化症、ポーエン病、乳房外パジェット病などといった皮膚がんや、母斑をはじめとした良性的皮膚腫瘍の診断・治療を専門として行なっていきます。

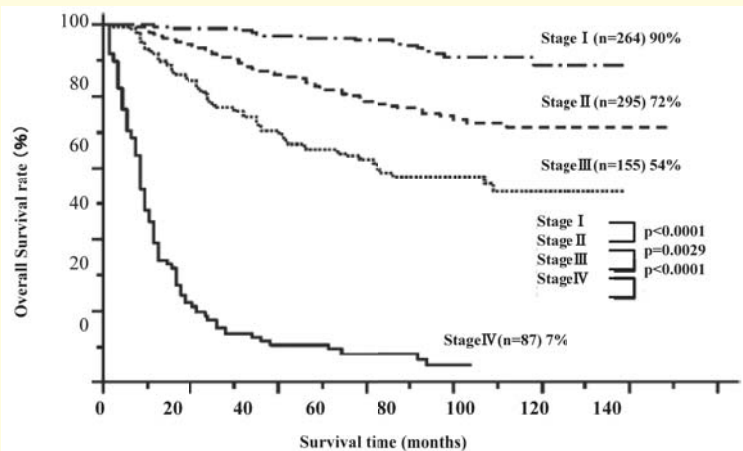
皮膚のメラノーマ（図1）は白人に多い皮膚がんですが、日本人は1年間で人口10万人当たり1.5～2人発生するといわれていて、近年その数が徐々に増加しています。病期Iであれば5年生存率は90%以上ですが、病期IVに進行すると予後が極めて悪くなり（図2）、目に見える部位に生じるがゆえに早期に的確に診断して適切に治療することが重要です。遠隔転移を生じたメラノーマに対してはこれまで有用な治療法がありませんでしたが、近年、新規の分子標的療法・免疫療法が次々と開発され、高い有効性が報告されています。新たな薬物も続々と開発されて数多くの大規模臨床試験が現在進行中であり、がん診療分野全体の中でもメラノーマは大きな関心を持って注目されています。本邦では今年9月に免疫チェックポイント阻害剤の抗PD-1抗体nivolumab が世界に先駆けて使えるようになり、他の新規治療が行なえる日も目前に迫っており、メラノーマ治療における黎明期を今まさに迎えようとしています。私自身、皮膚科専門医のみでなく、がん治療認定医、そして鹿児島県で唯一の皮膚悪性腫瘍指導専門医の資格を有しており、皮膚がん治療の変遷期に、循環器・脳卒中・がん専門施設である鹿児島医療センターで任を司ることができるとを光栄に思っています。皮膚腫瘍科・皮膚科では、私の専門とする皮膚腫瘍の分野はもちろんですが皮膚疾患全般においても、院内の先生方とスムーズな連携を取りながら、地域医療機関の先生方とより緊密に連携して、「患者さんに優しい医療」が提供できるような診療体制を構築していきます。皮膚がん診療においては国立がん研究センター中央病院をはじめとした全国の皮膚がんを専門に診療している施設と提携して、患者さん一人ひとりに合った最先端の治療を実現していきます。母斑をはじめとした良性的皮膚腫瘍については、これまでの形成外科診療の経験を活かして、的確な診断学に基づいたうえで美容的な観点からも患者さんに満足していただけるような診療を目指していきます。

皆様方のお力添えによって、鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科が鹿児島での皮膚腫瘍をはじめとした皮膚疾患診療の拠点となるべく、そして未来を担う若い先生にも魅力的な診療科となるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（文責：皮膚腫瘍科・皮膚科医長 松下 茂人）



図 1



Malignant melanoma: overall survival rate stratified by the new UICC disease classification (1997-2001; n = 801)

図 2

Ishihara K, et al. Int J Clin Oncol 2008; 13: 33-41.を改変

# 診療科紹介 — 消化器内科 —

平成26年4月1日付けで藤島弘光医長の後任として赴任いたしました。前任の藤島医長は「消化器がん化学療法」を専門とし、約8年間の在任期間中、多くの診療実績を残されました。「がん診療拠点病院」である当院は化学療法分野への期待が大きく、今後も当科の主軸担当領域として力を入れてまいります。一方、私藤田は前任地の鹿児島大学病院でクローン病、潰瘍性大腸炎に代表される「炎症性腸疾患」を専門領域として診療してきました。炎症性腸疾患の患者数は近年急激に増加しており、有効な新規治療薬も多数登場しておりますが、一方で難治症例に対応可能な専門施設が限定されているのが現状です。今後は当院でも積極的に炎症性腸疾患患者を受け入れてまいります。赴任してまだ半年ですが、既に生物学的製剤や免疫調節薬、血球成分除去療法等による治療を開始しております。

当院は県内でもいち早く「カプセル内視鏡」、「ダブルバルーン小腸内視鏡」の両モダリティを導入し、原因不明の消化管出血をはじめとする小腸疾患診療に力を入れてまいりました。カプセル内視鏡は平成24年7月から「パテンシーカプセル（ダミーのカプセル）」が保険適応となり、全ての小腸疾患に対象が拡がりました。消化管の異常が疑われる患者様がいらっしゃいましたら、全消化管の精査、治療が可能な当院に是非ご紹介ください。

また、昨年度十二指腸スコープを新規に導入したことにより、この4月より本格的に胆膵領域の診療も開始いたしました。総胆管結石の排石術や、閉塞性黄疸に対するドレナージ術、ステント留置術などを行っています。従来当科が対象としてこなかった領域ですが、胆膵疾患の手術を得意とされている外科の菰方輝夫医長と連携し、検査件数は徐々に増加しています。

消化器内科は私以下5名体制で、外来、検査、病棟診療に協力して対応しています。外来は、藤田と山路尚久医長、坪内直子医長の3名で下表のとおり分担して担当しております。また、上部・下部内視鏡検査、腹部超音波検査は毎日実施しています。上述の領域に限らず、循環器疾患や脳血管障害等の合併症を有する患者様など、腹部症状を有する患者様は、是非当科にご紹介いただければと存じます。

近隣の施設の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

## <平成26年度消化器内科医師>

- ・藤田 浩（H6年卒）医長  
日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医、日本消化管学会（暫定）専門医・指導医
- ・山路 尚久（H10年卒）医長  
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医
- ・坪内 直子（H11年卒）医長  
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
- ・福森 光（H18年卒）医師
- ・上田 紘子（H21年卒）レジデント

（文責：消化器内科医長 藤田 浩）

	月	火	水	木	金
初診	藤田 浩	山路尚久	坪内直子	山路尚久	藤田 浩
再診	藤田 浩 坪内直子	山路尚久	坪内直子 (藤島弘光)	山路尚久	藤田 浩



<消化器内科外来スタッフ一同>

# 職場紹介

## 【リハビリテーション科】

「連携室だより・鹿児島医セン」読者のみなさま、こんにちは。今回の職場紹介は「リハビリテーション科」です。平成19年4月に鶴川医長をリハ科専従として迎え、新体制（理学療法士3名から5名へ増員、心リハ専従看護師配属）となりましたリハ科ですが、8年目を迎えた平成26年度現在は、理学療法士6名・作業療法士2名・言語聴覚士2名・心リハ専従看護師1名・医長1名の12名体制となっています。九州グループの異動発令により毎年理学療法士に異動がありますが、できるだけすぐに溶け込みやすい雰囲気づくりを行い、スタッフ一同元気に明るく頑張っています。それではリハ科の各部門などの活動紹介を行いたいと思います。



### (1) 心リハ部門

平成19年5月1日から開始した包括的心リハですが、虚血性心疾患・慢性心不全・心臓血管外科術後患者の集団運動療法・集団教育指導・個別理学療法を行っています。日本心リハ学会認定心リハ指導士が3名在籍し、日々の臨床において常に運動処方やリスク管理、再発予防の重要性を意識した診療を行っています。同学会では毎年演題発表を2~3題行っています。これからも鹿児島県内外の学会や研究会で当院の様々な活動を報告予定です。

### (2) 脳血管疾患リハ部門

脳血管内科および脳神経外科の入院ケースにおいては、SCU・ICUでの早期リハ介入と同時に退院時運動指導にも重点を置くシステムをとっています。平成25年度からOT/STが2名体制となりさらに充実したリハを提供できるようになりました。超高齢患者・元来ADLの低下していた患者・重症脳出血後患者に対し、主治医・病棟スタッフ・MSWと協力しながら治療に取り組んでいます。今後も脳卒中患者の更なる在院日数短縮が予想される中でいかに効率よく、効果的なリハを提供するか検討を重ね、急性期脳血管疾患リハ医療の発展に努めたいと思います。

### (3) がん患者リハ部門

平成22年度からがん患者リハ料という保険算定制度が新たに導入されましたが、当院は平成23年1月に厚労省主催のワークショップに参加し、平成23年2月より同算定を開始しています。現在がん患者リハ料算定可能な療法士が4名在籍し、頭頸部がん・血液がん・消化器がんなどの周術期・化学放射線療法患者へ対応しています。平成25年5月に「がんのリハガイドライン」が出版されましたが、今後はこの領域のエビデンスの高いリハ治療が求められると思います。今後の課題は、がん患者リハ料の施設基準取得後に診療実績や治療内容がどのように変化したかの検証を行うことです。

### (4) チーム医療への貢献など

脳血管内科回診・心臓血管外科術前カンファレンス・耳鼻咽喉科回診・血液内科カンファレンスなど各診療科の業務への参加に加え、NST・緩和ケア・クリティカルパス委員会・医療安全推進担当者会議・呼吸サポートチーム（RST）・褥瘡委員会・クリティカルパス検討会・糖尿病教室・嚥下チーム回診などにもリハスタッフが参加しています。その他に理学療法士実習生受け入れ、言語聴覚士実習生受け入れ、附属看護学校生への臨床講義、循環器・脳卒中・がんそれぞれのエキスパートナース研修生への講義、など院内外の教育への貢献も果たしております。NST専門療法士認定教育研修は4年連続で開催しています。循環器・脳卒中市民公開講座の講師などへも積極的に参加しています。

これからも主治医・病棟看護師との連携強化をはかり、メディカルサポートセンター・栄養科・薬剤科・臨床検査科・放射線科・臨床工学部門などの各部門とのコミュニケーションを充実させ、他部門との人間関係を良好に保ち、院内・院外問わず誰からも信頼されるリハ科を作っていきたいと思います。病院建替えや病床機能の分化の波が押し寄せてきており、リハ科が急性期病院の中で貢献できる部署であるが改めて問われる時代になってきました。高齢で多疾患有病者が増えていく地域医療の現実の中で、鹿児島市で優れた高度急性期治療・救急診療を行う鹿児島医療センターが「鹿児島市で最も優れたリハ機能も有する病院」と呼ばれるように努力を続けていきたいと思います。地域医療連携も重要なカギとなりますので、皆様のお力添えを今後ともよろしくお願いいたします。

(文責：リハビリテーション科副理学療法士長 吉永隆一郎・同医長 鶴川 俊洋)

## 鹿児島医療センター平成26年度 脳卒中看護エキスパートナース研修公開講座のご案内

鹿児島医療センターでは、脳卒中看護の質の向上を図る事を目的に、12月1日(月)～12月9日(火)、7日間の脳卒中看護エキスパートナース研修を企画しております。つきましては、この研修の全講義(4日間)をオープン参加とし、地域の医療職、看護職員の多くの皆様にも参加していただけたらと考えております。

1講座から受講を受け付けており、いくつでも無料で受講できますので是非参加していただきたいと思っております。

月日	日 時	場所	講義内容	講師
12/1 (月)	10:40～12:00	鹿児島医療センター 研修棟3階	脳卒中概論	脳血管内科医長
	13:00～14:20		脳卒中看護概論	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
	14:30～16:00		脳卒中の分類と病態生理、診断および治療	脳血管内科医長
	16:10～17:10		重篤化回避の支援技術	救急看護認定看護師
12/2 (火)	8:30～9:30		栄養管理	栄養管理室長
	9:40～10:40		脳卒中の薬物療法	薬剤師
	10:50～11:50		運動・認知機能障害とその評価	脳血管内科医師
	12:50～14:40		脳卒中の外科治療	副院長
	14:50～15:50		脳卒中の検査	脳血管内科医師
12/4 (木)	16:00～17:00		急性期合併症予防の支援技術	集中ケア認定看護師
	8:30～9:30		脳卒中リハビリテーション総論	リハビリテーション科医長
	9:40～10:40		早期離床と基本的動作獲得への支援技術	副理学療法士長
	10:50～11:50		日常生活活動自立へ向けた支援技術	作業療法士
	12:50～13:50		摂食・嚥下のメカニズムと障害・訓練技術	言語聴覚士
12/8 (月)	14:00～16:00	脳卒中患者のフィジカルアセスメント	集中ケア認定看護師 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	
	8:30～9:30	再発予防の患者家族ケア	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	
	9:40～10:40	脳卒中患者・家族の理解と支援	副看護師長	
	10:50～11:50	脳卒中患者の退院・転院支援	医療相談員	

\*当院の駐車場は、外来患者さま、ご家族用にご用意しております。研修においでの際は、できるだけ公共交通機関をご利用いただくか、自家用車でおいでの場合は、近隣の有料駐車場をご利用いただきますようご協力お願い致します。

参加希望期日・講座名・施設名・参加者名をご記入の上FAXでお申し込み下さい。(申込締め切り 11月19日)

参加申し込み先：鹿児島医療センター 教育担当師長：中村 千鶴宛 FAX 099-226-9246

## がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会のお知らせ

平成26年度 鹿児島医療センター がん診療に対する緩和ケア研修会(多職種参加)を開催します。

鹿児島保健医療圏の地域がん診療連携拠点病院として、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修を行うという役割を果たすとともに、鹿児島県における緩和ケア医師等研修事業を円滑に進めるために、研修の講義及び企画・運営・進行に協力する指導者を養成することを目的として、医師のみならず、看護師、薬剤師など多職種参加の研修会を予定しております。「がん性疼痛緩和指導管理料」「緩和ケア診療加算」「緩和ケア病棟入院料」「がん患者指導管理料」「有床診療所緩和ケア診療加算」「外来緩和ケア管理料」については、緩和ケア研修会を修了した医師が治療に携わることが必須の算定要件になっているものもあります。

**開催日：平成27年1月11日(日)・12日(月・祝日)**  
**開催場所：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校**

研修参加ご希望の方は

開催要領、日程表等をご確認の上、鹿児島医療センターホームページ (<http://kagomc.jp/etc/kanwakea/index.html>) より参加申込書をダウンロードの上、平成26年11月21日(金)までに、FAXまたはe-mailでお申し込みください。

問い合わせ先：耳鼻咽喉科 松崎 勉 [matsu@kagomc2.hosp.go.jp](mailto:matsu@kagomc2.hosp.go.jp)

■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・井手・濱口・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津  
フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

